



2013年5月5日発行

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康 熊本市西区島崎4丁目5-13

ダムによらない治水・利水を考える県議の会が 立野ダム問題学習会を開催



県議の会による学習会 2013年4月26日

昨年12月、国土交通省は独自の「事業検証」で立野ダムの事業継続を決定。安倍政権の国土強靱化政策の影響もあり、国土交通省は今年度政府予算案に立野ダム事業費28億円を盛り込み、白川の流れをせき止めて仮排水路トンネルに水を流す転流工事に着手しようとしています。残念なことに熊本県知事や熊本市長ら流域首長も、立野ダム建設を容認しています。

そのような中、超党派の熊本県議会議員でつくる「ダムによらない治水・利水を考える県議の会」（平野みどり代表）は4月26日、立野ダム事業計画についての緊急学習会を熊本市の県

民交流館パレアで開催しました。学習会には関係市町村の議員や市民ら約130人が参加し、会場は満席になりました。

今本博健・京都大名誉教授(河川工学)が講演し「洪水調節機能を果たせない立野ダムは中止すべきだ」と訴えました。今本氏は、「立野ダムは地形上の特異性から、洪水時に水位が急速に上昇して危険だ。流木などでダムの穴が詰まれば短時間で機能しなくなる」と指摘。「白川は流下能力が過小評価されている疑念もあり、堤防の補強で十分代替できる」と提案しました。

さらに、「基本高水(洪水時に予想される最大流量)」を設定してダム等で洪水を調節する「定量治水」では想定外の洪水に対応できないとして、「河道改修や堤防補強で流域全体の安全度を高める方向に切り替えるべきだ」と主張しました。

「ダムによらない治水・利水を考える県議の会」は2005年12月に発足。川辺川ダム計画の中止や県営荒瀬ダムの撤去を求めてきました。ここ数年間休止していましたが、立野ダム問題が急浮上したのを受けて再開しました。メンバーは以下の皆様方です。

ダムによらない治水・利水を考える県議の会

平野みどり (代表)、松岡徹 (副代表)、鬼海洋一、岩中伸司、西聖一、磯田毅

●立野ダム問題をめぐる動き 2012年12月～2013年4月

- 2012年12月1日 ブックレット「世界の阿蘇に立野ダムはいらない」発売開始
12月6日 羽田雄一郎国土交通大臣が立野ダム建設事業の「継続」を決定
12月18日 立野ダム事業継続を容認した蒲島郁夫県知事に対し抗議文を提出
12月24日 下通りで立野ダム問題ビラ配布活動（15名参加）
12月28日 白川改修の説明会開催を求める要望書を蒲島郁夫県知事に提出
- 2013年1月19日 「世界の阿蘇に立野ダムはいらない」出版記念集会（80名参加）
1月29日 国土交通省は2013年度補正予算に立野ダム事業費28億円を盛り込む
2月上旬 熊本日日新聞が立野ダム問題特集記事を8回にわたり連載
2月6日 立野ダム事業費大幅増額に対する抗議文を蒲島郁夫県知事に提出
2月6日 立野ダム問題学習会（熊本市民連、いのちネット共催）60名参加
2月23日 下通りで立野ダム問題ビラ配布活動（15名参加）
3月15日 白川改修に関して県庁前早朝ビラまき活動（10名参加）
3月26日 下通りで立野ダム問題ビラ配布活動（16名参加）
4月21日 下通りで立野ダム問題ビラ配布、署名活動（12名参加）
4月26日 「ダムによらない治水・利水を考える県議の会」が熊本市で立野ダム問題緊急学習会を開催（130名参加）
4月27日 環境ネットワーク熊本が立野ダム問題現地調査

●「世界の阿蘇に立野ダムはいらない」出版記念集会

国土交通省は昨年、独自の事業検証で白川の治水には「立野ダム建設が最も有利である」と結論づけました。これに対する公聴会では、30名の流域住民が意見陳述をし、全員が立野ダム建設に反対や疑問の意見を述べ、「立野ダム案がよい」と発言した住民は一人もいませんでした。立野ダムができれば、白川流域の安全を守ることはできません。

そこで、住民の視点で立野ダム問題と白川の治水対策についてまとめたブックレットを出版し、1月19日に出版記念集会を熊本市民会館で開き、流域住民など約80人が参加しました。

ブックレットでも指摘された①国指定天然記念物「阿蘇北向谷原始林」の一部など、広大な阿蘇の自然がダムに水没する、②想定外の洪水には役に立たない、③流木などでダムの穴がふさがるとの懸念について、同会事務局が説明。熊本県立大学の中島熙八郎名誉教授が「ダム計画のために後回しにされた河川改修こそ優先すべき。流域住民が行政に対して声を上げていくことが重要だ」と訴えました。

参加者からは「流域住民がダム計画を知らないことが一番の問題だ」「白川は県民の財産。河川改修も含め国と県は説明責任を果たしていない」などの意見が出ました。

専門用語や分かりにくい数値などをできるだけ用いずに、分かりやすく編集したブックレットです。同封のチラシを見られ、ぜひ販売普及にご協力ください。



出版記念集会 2013年1月19日

●おかしい!! 県の白川改修計画

昨年7月12日洪水で、熊本県管理区間（熊本市の小碓橋から菊陽町境界まで）の白川は、改修がほとんど未着手であったため、大きな浸水被害を受けました。

昨年10月、熊本県は住民に対する説明会を開き、この区間の新たな河川改修計画を発表しました。住民の生命と財産を守るために河川改修は必要不可欠ですが、この改修計画を見ると住民が納得できない箇所が多々あります。

例えば高速道路橋（白川橋）下流では、浸水したホシサン醤油工場側ではなく、対岸の高さ20mのガケの川幅を広げることになっています。掘削予定の高さ20mのガケは貴重な樹林帯となっており、カワセミなどの野鳥の楽園となっています。ホシサン工場側の川幅を広げた方が、掘削する土量も大幅に少ないので、工期も大幅に短くて済むはずです。

平成14年の河川整備計画では、浸水したホシサン工場側を広げることになっていたのに、なぜ変わったのでしょうか。白川改修の問題について、私たちは流域の水害被災者の方々とともに、昨年12月より県知事に対し申し入れなどを行っています。県は改修計画について住民が納得するまで説明責任を果たすべきです。



斜線部分が2012年7月洪水の浸水区域。
太い線まで川幅を広げる計画



浸水したホシサン工場側(写真右側)ではなく、
高さ20mのガケ(写真左側)の方を広げる計画

●ビラ配り、署名活動

昨年10月から、熊本市の繁華街である下通りで、立野ダム問題のビラ配りを始めました。月1回のペースで、約1時間で500枚～1000枚のビラを通行する人たちに配っています。毎回10名以上の参加があり、4月21日には署名とりも始め、200名近い方々が署名に応じてくれました。横断幕とのぼりを見せて、声で呼び掛け、チラシを配り、署名をとる、という活動スタイルができてきました。

立野ダムを知らない方がほとんどです。これからも多くの人にこの問題の重大さを訴えていきたいと思っています。是非活動にご参加ください！



ビラ配り署名活動 2013年4月21日

from
熊本

ブックレット「世界の阿蘇に立野ダムはいらない」を出版しました。

立野ダムによらない自然と生活を守る会 事務局 緒方紀郎

熊本市を流れる白川は全国でも珍しいダムのない一級河川です。その上流に、立野ダムが建設されようとしています。阿蘇外輪山(カルデラ)の唯一の切れ目である立野火口瀬に国土交通省が計画した、高さ90mの洪水調節専用の穴あきダムです。取り付け道路などの工事は進みましたが、ダム本体工事には全く着手されていません。

立野ダムは、阿蘇くじゅう国立公園の36haもの広大な自然を水没させます。水没する阿蘇北向谷(きたむきだに)原始林は国指定の

天然記念物であり、国立公園の特別保護地区にも指定されています。クマタカをはじめ、国や県が保護すべきと定めている重要種174種の動植物が生息し、ダム工事の影響で42種もの生息地域や個体自体が消失するか、その恐れがあることが同省の調査で分かっています。

現状変更行為が許されない国立公園の特別保護地区に、本来ダムをつくることはできません。世界遺産登録や世界ジオパーク認定を目指す阿蘇にとって致命的なダメージとなるのは明らかです。

洪水時の白川の水は多くの火山灰を含みます。白川にダムをつくっても、土砂や火山灰で埋まります。

また洪水時、立野ダムの下部に開いている一辺が5mの3つの「穴」が流木などでふさがり、洪水調節不能となるのが容易に想定できます。立野ダムでは流域の安全を守ることができません。

立野ダム問題についてまとめたブックレット(花伝社・840円)を出版しました。世界の阿蘇と白川を未来に手渡す活動へのご参加をお願いいたします。

●問い合わせ

〒862-0909 熊本市東区湖東2-11-15 緒方紀郎
TEL・FAX: 096-367-9815
Eメール: ogt-hawks@s8.kcn-tv.ne.jp



A5判88ページ
価格: 840円



立野ダム完成予想図(旧建設省資料より)



日本自然保護協会が会報誌『自然保護5. 6月号』でブックレット「世界の阿蘇に立野ダムはいらない」を取り上げました

●今後のイベントのお知らせ♡多数のご参加を!

- 5月18日(土) 午前10時より 立野ダム現地調査(JR立野駅集合)
午後1時30分より 集会「世界の阿蘇に立野ダムはいらない」(大津町文化ホール)
- 5月19日(日) 午後4時より 立野ダム問題ビラ配り、署名活動(場所:下通り、銀座通り交差点)
- 5月29日(水) 午後7時より 5月定例スタッフ会議 熊本市パレアルーム(鶴屋東館9階)
- 6月26日(水) 午後7時より 6月定例スタッフ会議 熊本市パレアルーム(鶴屋東館9階)

※57号線沿など目立つところに「ストップ立野ダム」の看板が出せる場所を探しています。ご連絡を!

編集後記

早いもので、昨年5月に「立野ダムによらない自然と生活を守る会」を結成して1年が経とうとしています。結成間もない7月に九州北部豪雨が発生し、私たちは直ちに白川流域の被災状況の調査に出かけました。被災地を見ると、立野ダムを造っても何の問題解決にならないことがよく分かります。今後すべきことは河川改修と土砂災害対策であり、私たちはその検証結果を流域市町村や熊本県、国土交通省に何度も提出しました。にもかかわらず、国交省は立野ダムの事業継続を決定したのです。それらを分かりやすくまとめたのが、ブックレット「世界の阿蘇に立野ダムはいらない」です。大変好評で、発売開始から5カ月で当会でも約1300冊を販売することができました。まだ読まれていない方はぜひ読まれてください。この1年で、月1回の定例スタッフ会議とビラ配り活動は定着し、あちこちで学習会を開くこともできました。これからも阿蘇の大自然と白川の清流を守る輪を広げていけたらいいなと考えています。ご協力、よろしく願い申し上げます。(N.O.)